

共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループ（仮称）について

1. ワーキンググループのスコープについて

地理空間情報の利活用に関連する研究開発について、産学官の間で情報の交換、共有を進め、議論などを通じて理解を深めることで、研究開発のより効果的な推進に貢献する。

当面は、分野を限らず、いままではGIS・衛星測位関連として扱われてこなかった研究開発も含め、幅広く、地理空間情報の利活用に資する基盤技術として産学官の研究開発全般の動向を把握する。

2. 当面の活動（今年度）について

- (1) 産学官で行われている研究開発に関する紹介
- (2) 国際的な開発動向、関連した政策動向の紹介
- (3) 各分野での研究開発の状況及びそれらの総合的な関連を示した「研究開発マップ」の作成
- (4) 今後の研究開発の方向に関する意見交換

2. ワーキンググループの構成員

ワーキンググループは、次に掲げる者により構成するものとする。

産・・・協議会に参加する団体・機関、もしくは当該団体から推薦があった団体・機関

学・・・地理空間情報の活用推進について総括的に発言頂ける学識経験者

官・・・関係各府省の各部局等

4. ワーキンググループの運営について

(1) 幹事

幹事に関しては以下を想定しているが、それ以外の団体等からの応募も募集中。

- 産・・・木村弘 (財) 衛星測位利用推進センター専務理事
- 学・・・柴崎亮介 東京大学空間情報科学研究センター教授 (センター長)
- 官・・・内閣府政策統括官 (科学技術政策・イノベーション担当) 付参事官
国土交通省国土計画局参事官 (官側の主務)
国土交通省国土地理院企画部長

(2) 出席謝金、交通費等

民間団体 (社団法人、財団法人、NPO法人、任意団体等)、学界からの参加者に対して、国から出席謝金、旅費等の支給はしないものとする。

(参考) 当面のスケジュール予定

第1回 (10月下旬)

- ・ WG趣旨説明
- ・ 地理空間情報の利活用に係る研究概要 (講演)
- ・ 活動スケジュールについて
- ・ 研究開発動向に関する調査の進め方について

第2回 (11月頃)

- ・ 専門家からの情報提供
(テーマ例: 国外研究開発動向、ユビキタス技術開発動向、
利活用を支える測位技術動向等)

第3回 (2月頃)

- ・ 研究開発動向に関する調査のとりまとめ報告
- ・ 専門家からの情報提供
(研究開発動向に関する調査の結果を踏まえ、テーマを設定予定)

第4回 (3月頃)

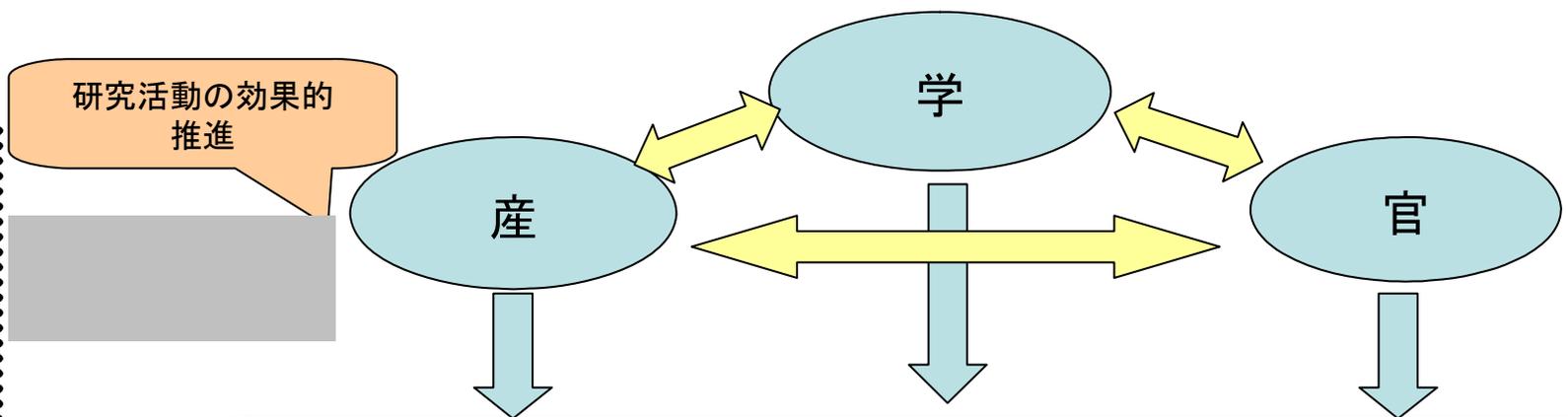
- ・ 研究開発マップ (ドラフト) の検討

第5回 (5月頃)

- ・ 研究開発マップの報告 (報告会)

※あくまで現時点での想定であり、今後変わりうるものである。

共通的な基盤技術に関する研究WG
情報交換
情報共有



共通基盤技術

- 多様な整理・統合情報を位置を使ってできる
 - ・PI
 - ・地名辞典
 - ・アドレスマッチング
 - ・基盤地図情報
 - ・共用空間データ
- いつでも正確な位置がわかる
 - ・インテリジェント基準点
 - ・シームレス測位
 - ・衛星測位
 - ・位置情報認証
 - ・ユビキタス空間情報基盤
- 多様な情報を位置から容易に検索・利用できる
 - ・位置の秘匿技術
 - ・動線解析

